かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
（0865）
電話 66−1311
FAX 66−1314

涼　風

初代の心にかえり信仰の喜びを
深めよう　伝えよう　広げよう

一、持ち場立場で日々理作り
一、家族揃って教会参拝
一、一日一件にをいがけ

立教174年 7月号

～1130人がおぢばに参集！～

── 創立120周年に向けて決意も新たに ──

6月25~26日　笠岡別席・ひのきしん団参実施

大教会では６月25、26の両日「笠岡大教会別席・ひのきしん団参」を実施、１千130人（別席、おさづけの理拝戴者含む）が参加した。

教祖130年祭に向かう一里塚として本年11月30日大教会創立120周年記念祭がつとめられる。130年祭に向けての大教会の活動方針である「おつとめ奉仕人の増加」に向け、別席者のご守護を頂き、おぢばへの伏せ込みを念頭に、これまでの歩みを実行に移そうと行われたもの。

土、日曜日ということもあり１泊２日、日帰り団体、個人帰参など各教会もこの日に向けて実動。25日は午後、東礼拝場でのおつとめ、神苑での清掃ひのきしん、別席、詰所での記念講演、26日は本部６月月次祭参拝、別席を受けた。

25日、午前９時ごろには山陽自動車道、吉備サービスエリアに参加者を乗せた各教会の大型バスをはじめマイクロバス、ワゴン車などが続々と集結。休憩の後、一路おぢばを目指した。

当日の天気予報では奈良県は曇りのち雨。気温は29度。予報を覆し青空の広がる晴天。

午前11時半ごろから別席受付には別席者が並び始めた。笠岡大教会以外の数ヶ所の教会も別席団体を計画。正午の午後席受付開始時には、別席場の外まで長蛇の列。大教会別席係の誘導で別席場へ。

一方、神殿東礼拝場へも続々と参加者が集合。午後１時、田中隆之福山分教会長の「拝礼」の合図で拍子木に合わせて創立120周年記念祭への決意を誓いつつおつとめをつとめ、勇んだ声は礼拝場に響き亘った。

その後、各ブロックごとに分かれて約１時間、季節はずれの猛暑の中、神苑で草取りなどの清掃ひのきしんを行った。午後２時のおぢば一帯の気温は33・3度（奈良気象台調べ）。参加者は帽子、タオル、日傘などを利用し暑さを凌ぎながら汗を流した。

午後７時からは、詰所講堂で講師に川島一郎先生（甲賀大・勢津分教会長）を迎え記念講演が行われ、宿泊者など約600人が参加した。

大教会長様が「神殿でのおつとめ、神苑でのひのきしんをつとめ、皆様の真実の姿を心で、また身体で感じ喜ばせて頂いた。笠岡につながるよふぼく一人一人が創立120周年記念祭に掲げるスローガンの歩みをしっかりと踏み固め、教祖130年祭に向けて末代続く信仰の歩みの中で、陽気ぐらしの世の中を築いてゆくというよふぼくの自覚と使命感を持って、共々に成人の歩みを進めて頂きたい」と挨拶。

引き続き、川島先生は○東日本大震災で目の当たりにした現状○おつとめこそが全人類を陽気ぐ

大教会本年心定め

○初席者数	２７９人	（４９人）
○よふぼく数	２１７人	（３１人）
○修養科修了者数	１３５人	（　６人）
○教人登録者数	１１４人	（　０人）
○参考）教人資格講習会		（　１人）
教会長資格検定講習会		（　３人）

（括弧内は１月１日～６月３０日）

記念祭までに心定めを完遂するよう
つとめさせて頂きましょう

猛暑の中、ひのきしんに汗を流す参加者

らしに導く究極の手段で、人生で遭遇するピンチをチャンスに変える唯一の方法○娘の出直を通して授かる命の不思議○親神様のご守護のありがたさ○見て、聞いて、果たして喜ぶ――など自身の体験を通しての講話をされ、最後に「元の理」を採り上げられ「人間が陽気ぐらしを目的に生きていく最も大切な教理である。本部月次祭、教会での月次祭にも『元の理』を常に頭に浮かべて、よろづたすけを願ってつとめ、すばらしい道を共々に陽気に勇んで歩ませて頂きましょう」と結ばれた。

最後に、田中一之創立120周年記念祭実行委員長が「記念祭まで残り158日。この日を目指し、『一日一件にをいがけ』を重点に実践し、当日、今ここに参集下さる皆様を中心に真柱様、奥様をお迎えして親の心を十分に頂戴し、更なる成人へと進ませて頂きたい」と挨拶、閉講した。

26日は、本部6月月次祭参拝、別席を受け創立120周年記念祭に向けての新たな決意を胸に参加者は帰路に就いた。

初席者16人、中席者34人、おさづけの理拝戴者10人（おさづけの理拝戴者名は大教会便りに掲載）。

神苑清掃ひのきしん現場は次の通り。

○第三御用場周辺＝西ブロック・久松
○西境内地南側＝福山・上下
○西境内地北側＝高屋・府中市
○お茶所前広場＝東ブロック
○幼稚園前広場＝島根

別席・ひのきしん団参を終えて

大教会創立120周年記念祭実行委員長　田中一之

このたびの6月の25日から26日にかけて行われた、笠岡大教会別席ひのきしん団参には、1130人という大勢の方々の帰参のもと、心一つにつとめられましたこと厚く御礼申し上げます。

東礼拝場に集合し、吉川萬太郎本部員先生の拍子木に合わせ、おつとめを勤め、お礼と共に120周年記念祭への決起を誓わせて頂きました。引き続き、境内地のひのきしんをさせて頂き尊い汗を流させて頂くことが出来ました。

また別席者も60名あり、そのうち初席者16名、おさづけの理拝戴者10名のご守護を頂いておりま

川島先生の講話に熱心に耳をかたむけた

す。今回は創立120周年実行委員会としても、別席場で帰られた方々に声がけを行い共に喜びを分かち合い、また希望により、お授けの理拝戴者のお世話をすることも出来ました。

夜には記念講演を行い、大教会長様のご挨拶に引き続き、勢津分教会長川島一郎先生の講話に決意を新たに致しました。

３年前「初代の心にかえり 信仰の喜びを 深めよう 伝えよう 広げよう」とのスローガンを掲げ、大教会創立120周年に向かい三年千日活動を開始しました。同年５月21日には世話人島村廣義先生をお迎えして「決起の集い」を開催し、10月25日に別席ひのきしん団参を行っています。

昨年は６月27日に別席ひのきしん団参を行い、いずれも千名を超す人々が、おつとめの後、回廊ひのきしんをさせて頂いています。10月31日には大教会で「一手一つ大会」が行われ1300人余が結集し記念祭に向かって成人を誓い合いました。

いよいよ三年千日仕上げの年である今年も、記念祭まであと４ヶ月と迫っています。これまでの活動を受けて、「持ち場立場で日々理作り」「家族そろって教会参拝」「一日一件にをいがけ」を合い言葉に邁進して、素晴らしい創立120周年記念祭を迎えたいものと思います。一人でも多くの参拝者のご守護を頂けますよう御丹精の程、切にお願い致します。

進んで神殿奉仕をつとめさせて頂こう！

道の活動の生命であり、たすけの基盤

大教会神事部長　岡本久善

先般、六月二十九日、大教会長様より役員、直轄教会長会議の席上、大教会構内役員の方々も、教会長として、又、教会住込として、教会修理、丹精の為に、出向かれる由のことを申され、今日迄の奉仕当番の長年の状態を鑑みて、つとめ方を改める様御指示頂きました。

私も、神殿奉仕当番の上には、種々思案を重ねては居りましたが、会長様のお言葉を頂き、当番日程を作らせて頂く上、急拠、対応させて頂くこととなり、直轄教会長様方と相談し、当番日取を進めさせて頂いて居ります。

早速、直轄、部内一覧表を取り出して、見て参考にし、教会長不在、教会長身上、老齢化により奉仕出来ない方々が、私の見立てた所三十名称あり、奉仕当番制度以来続けて来られた、部内教会長様には二ヶ月に一度、更にその部内に在っては三月に一度お務め頂くとすると、当番は、一日、直轄教会長、教会長以外役員を合せて一名、部内教会長一名の計三名の方々で、御つとめ頂くこととなります。又、当番の先生方には、当番日の前日夕づとめから当日の夕づとめ迄を原則としておつとめ頂くことになりますので、宜敷くお願い致します。

当番の制度は、明治二十四年、備中眞明講の結実以来、支教会、分教会、大教会と、組織が整理されると共に整備され、今日の様な状態に至って居りますが、教会史に目を通しますと、今日の直轄、部内教会の初代の方々が、笠岡大教会の機構の数多くの部分を担当され、生々として励まれた様子が伺がわれます。当然の如く、神殿奉仕の役に関わる人々も生まれ、何役も兼ねて、おつとめ頂いた様です。その間に、学び相いつゝ絆を深め部内教会の設立の時代を経ても、部内と大教会が一体となって、おぢばの声に呼応出来たものと、推察させて頂きます。

大教会神殿奉仕当番も、小さな一役では在りますが、道の活動の生命である、”たすけ“の基盤であるならば、大切な御役と、拝受すべきものであると思います。又、教会の動きと共に、当番の在り方は変わりゆくものでありますが、より良き方法、御意見が聞かせて頂ければ、参考にさせて頂き、一人でも多くの方々におつとめ頂き易いよう、努力させて頂きます。

サマーキャンプ 大募集!!

天理教少年会笠岡団

8 月 22 日(月)～24 日(水) 2 泊3日

☆集　　合　8月22日 午前8時半 大教会

☆行　　先　せらにし青少年旅行村

☆内　　容　ウォータースライダー

キャンプファイヤー、など

☆持 参 品　弁当 1 食、水筒、着替え、洗面具

帽子、長そでシャツ、ズボン、水着

☆対　　象　少年会員(小3～中3)

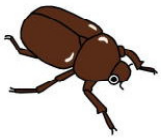
高校生以上は育成係

☆定　　員　30 名

☆参加御供　3,000 円 米2合

☆申し込み　各教会又は大教会

☆〆　　切　8月15日



温故知新

いきいきエピソード　5

二代会長の我が子への仕込み

三代会長夫人・くにゑは二代会長の次女なので、表題を「我が子へのしこみ」とした。ちなみに長女・ちよは二歳で身上で出直し、三女・さかゑは東津分教会二代会長・今川政太郎氏へ入嫁している。引き続いて先述した年祭での三代会長夫人の記念講話からである。

「私に対する二代会長、すなわち父の仕込みを取り次ぎさせて頂きます。二代会長は理に生きる方でございまして、また非常に情に闌(た)けた方でした。私は親として仕えるという気持ちよりも、会長からの仕込みを戴くという点が非常に多かったのでございます。丁度大正の八年でした。結婚して四年ばかり経った時でございますが、私が大患になりまして身上どっちになるか分からないという大きな身上を頂戴いたしました。まだ道の上の成人は出来ておりません。その時に、主人(後の三代会長・繁雄)は笠岡の役員として島根に巡教に行っておりまして、その留守の事でした。ずんずん身上が悪くなって、しかもそれが全身への身上で、頭が痛む、胸が悪くなる、筋肉が痛み突っ張る、どうしようもない状態が続いたのです。父である二代会長はそんな私にどう申したかと言いますと、「結構やなあ。身上戴いて結構やなあ。今日の日を待っておった」とこう申します。私はもう耐えられん思いであります。いつまで続く身上なのか何とか助かりたい、医者にも診て頂き、薬も出して貰っていました。しかし薬は頂いても全部もどしてしまいます。その時父が申すには、「この時を待っておった。こうならねば、本当の心は出来ない」と申します。ある時に来てくれていた森医師(当時の上原家の掛かり付け医師)が、「こんな狭い処では可哀相ですから、広い場所に暫く寝させて上げてください」と言ってくれた事がありました。

私は余りに耐えかねて何とか主人に知らせて欲しい。そして夫婦は一体やから、主人が何とか思案してくれれば私は助かるんやないかと思いまして二代会長に言いましたところが、「何を言うか。神様の御用を勤めに出た者は道の軍人や。戦場に出ている者に内に家族が病気であるから帰って来い、又、こういう重病になっているという事が知らされるか」こういう言葉でした。私はその時どれだけ泣いたか分かりません。「情けない道やなあ。これでもお道かなあ」と。丁度子供が二人、長男(道雄)が出来て次男(雅志)が生まれたばかりでしたので、二人の子供をおいて私は出直してしまうと思った時、耐えられぬ思いが致しました。そして、何とか手紙でも出して貰いたいと申しますと、「例えお前が重体に陥って、もし命が切れても、お前の出直しという事は道の御用に出ている繁雄には知らさん」と父が申します。私はもう情無くてちっとも悟りがつかなかったんであります。その頃、巡教が終わり主人が帰ってまいりました。ところが一寸身上はよくなりましたが、それからどしんと悪くなりました。部屋を八畳の広いところに替えてくれました。ある日の事、次から次から役員さんが仕込みにおいで下さいまして、おさづけも取り次いで戴きました。岡本久作先生がある日枕元に来て、きょうは私がおさづけの取次させて戴きますと仰った時には、私

の脈はすっかり乱れておって、有難う御座いますというなり、何も分からなくなりました。暫くして、ふと気が戻りまして、「紙とエンピツを貸してください」と言いましたら、主人が持って来てくれました。私はその時、前生のいんねんから、今生たった二十三年ですが、そのいんねんをさんげ致しまして「今後は肉親でなくて、理に神様に仕える心で両親に仕えさせて頂きます」と信念を書かせて頂きました。そして自分でいつ筆が落ちたか分からない状態で俯せのまま数時間経ってホッと目を開けると明かりが見えるので、「アラ、自分は生きてたかなあ。アー有難い」と思っておりました。

　すると父が申すには、「全身の肉が痛み、全身の骨が痛むというのは、丁度飯降伊蔵先生が本席にお定まりになる前にアバラがギシギシと音を立て全身が痛み汗みずくになって苦しまれた。お前は今までは人間のくにゑであったけれど、これからは神一条の御用をさせて戴くくにゑになるんだぞ」と、こういう事を言ってくれたんであります。そしてふと手元を見ると、「これからは、両親には理の親として仕えさせて戴きます」という事が紙に書いてあります。私はそれを見て、「あ、この心定めで助けて頂いたんだな」と御礼申しあげました。以来、薄紙をはぐように御守護戴きどうにか高い枕も下げさせて頂き、日々勤めさせて頂く中にも自分に心定めをさせて頂いて通らせて頂くという道の人間の歩み方を学ばせて頂いたので御座います。

　で、どこまでも父は私が身上を頂きますとただちにそれではいけない、こういう処を考え直してゆけとパっと言ってくれます。私は人間思案が先に立って辛いものですから、身上でも何でも隠すように通らせて頂いていましたが、父にはすぐにそれが分かるんです。そうして、きちっきちっと角目を押して私を仕込んでくれました」

　記念講話はまだ続く。この時の年祭は二代会長五十年・二代会長夫人十年祭であるので、三代会長夫人の二代会長夫人についての想い出話がこの後に続いている。次回はその二代会長夫人の母親と祖母の想い出話を、講話に沿って述べてみたい。

　ところで、このように大患で苦しむ娘の枕元で、「身上貰うて結構や。これを待っていた」そう言える親が、代替わりした現在の信仰者の中に何人いるだろうか。私達も次の世代に信仰を伝えていく歴史的使命をもっている者であるという事を考えるなら、いろいろ考えさせられる三代会長夫人の講話である。

（笠岡史料部長）

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌七月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「手」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

佳　詠　　東悠分教会前会長夫人　田林 美智子 さん

鳴物が上手に和してお泊り会

▼表　紙　の　書

天場山分教会　役員　野津 正樹 さん

タンザニア伝道記

第3回タンザニア布教を終えて

海外部員　津森朋之

このたび第３回タンザニア布教に同行させていただきました。メンバーは上原部長、上原順子奥さん、佐藤和代さん、私の４名でした。打ち合わせ会で上原部長より、マラリアの事、生水を飲んでの下痢の事を念入りに注意を受けていたので、健康面で多少心配があったのですが、お陰様でそうしたこともなく、充実した８日間でした。チーム最高齢の順子奥さんも、長距離移動の連続による筋肉痛以外は元気で過ごされましたので、油断さえしなければ誰でも行けると思います。さて、日付順に今回のタンザニア布教のあらましを簡単にお伝えしたいと思います。

▼5月26日　23：58

関空出発(往復カタール航空)

▼5月27日　12：40（現地時間）

途中ドーハで乗り換え、ダルエスサラーム到着。時差が６時間あるので、19時間かかったことになる。町は左側通行以外は交通ルールなしの無法状態で、至る所大渋滞。車のクラクション、人々の喧騒、アフリカン音楽の洪水、土ぼこり、まさに混沌たるアフリカ。さっそく宿泊でお世話になったマユンガさんのお兄さん、奥さんの御両親のおたすけに向かう。マユンガさんのお兄さんは脳梗塞で昨年は寝たきりだったとの事。今年は自力で歩ける姿を我々に見せて下さり、一同大感激をした。

▼5月28日

道路は相変わらず大渋滞。午前中に到着予定する予定だったダイアナＮＧＯには昼過ぎに到着。２時間の遅刻。それにもかかわらず炎天下の戸外で我々を待っていて下さる。まず太鼓とダンスの歓迎、そのあと施設紹介、意見交換、施設案内、歓迎昼食会と続く。その後施設の孤児達、ＨＩＶの職印さん等におさづけの取り次ぎ。初めての天理教であったが、代表のダイアナさんはパンフレットを読んで、かしもの・かりものの教えは真実だと思うと話しておられた。信仰に対しての敬虔、真摯で素直な思いが伝わる。

▼5月29日

長距離バスで13時間かかってアルーシャに到着。アルーシャはキリマンジャロの麓に位置する観光都市である。

▼5月30日

終日アンジェロＮＧＯ訪問。このＮＧＯは元売春婦のお母さん達とその子供たちのお世話取りをされている。スタッフの皆さんのお母さん達にかける助けてやりたいとの熱い思いがひしひしと伝わってくる。この日は11人のお母さんと子供たちが集まられる。施設紹介、意見交換の後お母さん達が１人ずつ出てきては、売春するまでになった事情を話される。その後スティーブ(用木)を司会として、お母さん達と〝どうしたら陽気ぐらしが出来るか〟というテーマで活発な練り合い。10時に始まった会も終わったら５時であった。その後、母親の１人の家を訪問。スラムの中の４畳くらいの薄暗い部屋に７人の子供と暮らされていた。トタン屋根は腐って穴があき、雨が降ると部屋の中に汚水が入り込むという。長男は何がしたいかとの問いに学校に通いたいとしきりに訴えていた。

母親と6カ月の末子（ＨＩＶ感染）におさづけ取り次ぎ。

このＮＧＯは設立後日が浅く、行き詰まりを感じておられた由。私達の訪問を受けて、母親達の表情がとても明るくなり勇気づけられた。来年もぜひ来てほしい、その節にはおさづけの場も設けさせてもらうとの喜びの声を聞かせてもらう。

▼5月31日

ＮＯＡＨの４駆で出発。２時間余り走ると山道へ、山道を登りつめたとたん、突然眼下に巨大なクレーターが出現。ここが有名なンゴロンゴロ自然保護区。クレーター内は広大な草原で、湖や林も見え、まるで箱庭の様。数万頭の大型動物を始め、沢山の野生動物の宝庫で、アフリカのエデンの園と呼ばれている。

それを横目で見ながら進んでいくと、見渡す限りの大草原に出る。その草原の中を1時間ぐらい進んでいくと、目的地のマサイの部落に到着。草原の中に泥などを固めて作った丸い小屋が点在している。我々の姿を見て、総勢150名くらいのマサイの人たちが槍を持ってジャンプする有名なダンスと歌で歓迎して下さる。マサイの人たちは長身、勇猛でプライドが高く「草原の貴族」と呼ばれています。そんなマサイの人達にカメラを向ける事は、「槍を投げてもいいよ」というに等しい暴挙らしいが、私達を案内してくれたエディナ（別席運び中、マサイＮＧＯ代表）のおかげで、大っぴらにレンズを向ける事が出来る。歓迎式典の後、４人でよろづよ八首。順子奥さんが拍子木で３人はお手振り。周囲を囲む大草原、マサイの人達の見つめる中、精一杯に声を出してつとめる。マサイの地での初めてのよろづよ八首、教祖もお喜び下さっているだろうなと思うと胸が一杯になる。上原部長の感慨はひとしおであったと思う。その後おさづけを申し出ると、11人の方が並んで下さった。肌の色も違う、言葉も違う全くの初対面の人に対して、痛むところに直接手を触れてお願いをさせて頂けるおさづけは本当にありがたいと思う。

大自然の中で自由に暮らすマサイの人達、うらやましいなと思う反面、電気・ガス・水道がない点、学校・病院のない点、又高地に在り、7・8月の冬季は耐え難い寒さである点、天候に左右される放牧生活など厳しい生活環境の説明を受ける。

▼6月1日

アルーシャから13時間かかってダルエスサラームへ戻る。

▼6月2日

最終日、懸案事項であった衣料救援物資を預けてある倉庫に取りに行く。

見送りに来て下さったアンジェラＮＧＯの方達に救援物資を引き渡す。後ほどお母さん達から大変喜ばれたと報告があったと聞く。

（タンザニアで思ったこと）

○ 貧困→教育の機会喪失→貧困の悪循環、とりわけ弱い立場の女性が、生きていくため、子供のため否応なく売春の道を強いられている現状に心が痛みました。貧困と教育の問題は密接につながっています。世界中で高校に行ける子は100人のうち2人だけ。反対に日本では98％の子が高校に通っています。進学出来ない98人のために何ができるか考える視点も大事だと思いました。

○ 教祖はをびや許しをはじめとして男女の在り方など、常に女性に対して暖かいまなざしを向けて下さいました。彼女達にそうした教祖のひながたをお伝えできれば彼女達のこれからの人生にとって、大きな支えとも指針ともなるなと思いました。

○ あるマサイの人が来日した時、日本から何を持って帰りたいですかと尋ねられ、「どんな季節でも枯れることなくきれいな水が流れている日本の川を持って帰りたい」と答えられたとの事。そういえば川自体あまり見る事もなく、あっても水たまりや泥の様な川、日本のようなきれいな川はとんと見かけませんでした。アフリカに来て初め

て日本の事、日本の誇れること、日本の守るべき大切なものを再発見した気がします。

○たった8日間の旅でしたが、沢山の人と出会い握手をし挨拶をかわし、タンザニアの国が抱えている諸問題を聞かせてもらいました。月並みな言葉になりますが、まず行ってみなければ何も始まらないなと思いました。8日間で何が分かるわけでもありませんが、まず出会いがあって話し合い、真剣に考える事から物事が始まって行くのだと思います。この出会いを大切にして、つながりを持ち続け、タンザニアと関わり続けていけたらと思います。まずは今年の記念祭に前後して、9名ぐらいの方がおぢばに帰り、別席を運ばれる予定になっています。喜んで帰ってもらえるよう歓迎したいと思います。

ありがとうございました。

タンザニアに生活（2006年統計）

人　口	3千800万人
面　積	日本の2.5倍
平均寿命	46.3才
年間総収入	340ドル／人
5歳未満児の死亡率	122人／千人
初等教育終了率	54％
高等教育終了率	1％
177ヶ国中　162番目の最貧国の1つ	

青年会ひのきしん隊 14人で入隊

青年会笠岡分会では、おやさとふしん青年会ひのきしん隊第771回隊（6月隊）に、入隊心定め通り14人で入隊。24日間、おぢばでふせこみの汗を流した。

今年の入隊者は、次の通り。

上原繁次、山田英嗣、杉原善朗、中村剛史、中村元彦、重政理治、山口晃治、佐藤真理志、谷本光司、押尾啓司、余村元、三代節生、高島一定、岡崎祐介。

14人にこだわったからこそ

まず始めに、この度のひのきしん隊入隊において、心を寄せ、ご協力いただきました全ての方々に、誌面からではありますが篤く御礼を申し上げます。

思い返せば、昨年のひのきしん隊（7人入隊）が終わった日より、「大教会創立120周年の年には、何が何でも14人！（本部よりの割り当て人数）」との思い一つで、声かけに奔走した1年間でした。

私自身3年前に初めて入隊しましたが、その時はわずか3人で入隊し、寂しい思いをしたのを覚えています。しかし、ひのきしん隊の一日の日課、修練、にをいがけ、まなび、同世代の仲間との信仰談議などを通して、「このひのきしん隊は、身も心も修養、成人させていただける所だなあ。より多くの笠岡の仲間と共に来させてもらいたい。」と感じました。

そして、この度「とにかく14人！」という思いだけで、動員をスタートしました。当初、お誘いした人が仮に全員入隊してくれたとしても、10人にも届いておらず、目標達成できるかどうかの実感、感触も得られないままでした。しかし、この旬の年に、青年会長様、大教会長様、笠岡の先代の先生方に喜んで頂きたいとの思いを委員で分かち合い、各教会への巡回（7月迄に80教会超）、理づくり、声かけをしてきました。

そうして動員活動を続けながら、5月の本部月次祭前夜には、13人目の入隊者をご守護頂きました。しかし、その後、「あと1人」のところまできて、思い当たるところ全てが出尽くしたような感じになってしまいました。そんな時、ある委員さんから、「ここまでみんなで一生懸命させていただいたんだから、後は、神様にお任せしよう。」と電話があり、深夜の神殿に足を運びました。

その2日後、ついに14人目の入隊者をご守護頂きました。14人目の彼は、ほとんど天理教の事

は知らず、当然別席のお話も聴いた事がありません。入隊に際して、理の親の方から、「何とか初席まですすめて欲しい」とお願いを受けました。彼は、とても素直で、周りともすぐに打ち解け、そのおかげでひのきしん隊期間中に初席を運んでくれました。

6月1日から24日まで、入隊者一同、親里各所で、こどもおぢばがえりの看板製作や、会場準備、蛇谷山での木出しひのきしんなどに汗を流しました。また、ひのきしん隊全体でのにをいがけ日とは別に、笠岡分会として三昧田方面に、にをいがけに出させて頂き、何人かは、初めての神名流し・路傍講演を経験いたしました。更に、詰所で給水タンク内の洗浄ひのきしんもさせて頂きました。

その他、修練や月次祭まなび、感話大会、身上者へのおさづけの取次ぎ、じっくり語り合える仲間との出会いなど、入隊者それぞれ大きな心のお土産を持って帰ってくれたのではないかと思います。

この度、「14人での入隊」にこだわっていなければ、今回入隊頂いた方々は、来ていなかったかもしれませんし、最後の14人目の彼が入隊し、初席を運ぶという事には、なってなかったと思います。定めた心に神様がお働き下さったという事を、会活動を通して仲間と共感できたことを、本当に嬉しく思います。

ひのきしん隊は、「常時の後継者講習会である」とも聞かせて頂きます。来年は、「15人での入隊」を目標としています。1ヶ月間、分会を挙げて全力で丹精いたしますので、どうか動員をよろしくお願いいたします。

（笠岡分会委員長　上原繁次）

急勾配での蛇谷山 木出しひのきしん

国道169号線沿にて手をどり

こどもおぢばがえりの看板制作

笠岡分会と飾東分会による第2班

ひのきしん隊に参加して

大教会　岡﨑祐介

ひのきしん隊に入隊する前に、特に何と言うわけではないですが、何か誘いがあったらなるべく受けようと思っていたので、今回のひのきしん隊の入隊を決めました。入隊の一週間前ぐらいに誘われて、誘いを受けましたが、私は、天理教の事を殆ど知らなかったので、少し戸惑いはありました。

実際、隊期が始まると、朝のおつとめに始まる一日のスケジュール、様々な場所でのひのきしん、修練など、慣れないことばかりで、毎日が大変でした。しかし、班のみんなが良い人ばかりで、様々な事を教えてくれたり、気軽に声をかけてくれたりと、楽しく過ごすことができました。また、隊期中に初席を運び、初めてにをいがけにも出て、路傍講演もしました。

結果からすると、時間の都合が合えば来年も参加したいと思ったので、自分にとってよかったのかと思います。おぢばに伏せこんだ意義など、今の私にはよく分かりませんが、みなさんと1ヶ月過ごせて、漠然とよかったと思います。よくわからないからまた参加したいと思うのかもしれません。今後は、別席のお話を聴きに行ったり、青年会の行事にも参加したいと思います。

こどもおぢばがえり 看板取付けひのきしん

少年会(中島誠治団長)では、6月22日こどもおぢばがえり受入れひのきしんを実施、同会各係担当者など10人が参加した。

本年4月20日、大教会で実行委員会メンバーを招集し、第1回目の会議を開いた。総務・育成・ひのきしん・行事の各係との連携で詰所の受入れ体制の充実を計る為、各係ごとに昨年の反省点を基に綿密に話し合いを行った。

ひのきしんの部では、6月22日に看板設置日が決まると6月21日の大教会祭典終了後、模擬店で使用するテントや資材をトラックに積み込み、乗用車とワゴン車などに分乗し、午後4時頃大教会を出発した。

22日は、前日の雨の予報にも関わらず、今年の最高気温を記録する暑さだった。午前7時より玄関前に看板を設置する為の鋼管や必要な材料の準備を全員で行った。その後、鋼管での枠組みをする者と2階に看板を取り付ける者に分かれ、昼食をはさみ午後2時頃予定作業を終了した。

毎年、詰所でひのきしんに合流して下さるノウスアメリカ教会の佐藤さんは、修養科終了後から欠かさず大阪から準備に来て下さり、事あるごとに詰所の維持管理にも尽力下されている。又、毎回ひのきしん時には、詰所主任始め勤務者の温かいもてなしを受け、この日も作業終了後は入浴。ベタベタの汗を洗い流して午後3時に詰所を後にした。

詰所こどもおぢばがえり看板取り付け

教会別人づくり一覧表（立教174年１月１日より 立教174年６月30日まで）

名称	初	授	修	教人資格講習	会長資格検定
笠岡	5	3	1		
福山	1	2			
髙屋		1			
神邊					
島根	1				
久松					
鶴山					
弥髙山					
陽備	1				
摩耶					
金浦					
興明					
ひろさと					
陶山		2			
芳井					
呉照					
海松ヶ岡		4			
東悠		1			
吸江		1			
照陽					
輝美濃	1				
新山邑	1				
呰部					
明石市					
上下	1				
府中市	3				
東城					
服部					
島中					
驛家					
油木					
葦陽					
湯田原	2				
備中					
神昭					
美之郷					
錦備					
笠晴					
廣町		1	2		
福廣					
福勇	1				
福芦					
福満		1			
福岩					
西村					
福年					
引野	1				
福昭					

名称	初	授	修	教人資格講習	会長資格検定
福春					
福中					
福冨士					
福東					
東福山	1				
福南					
福順					
福節					
福備					
福輝					
坪生					
八尋					
深安					
笠尋	2				
芦品		1			
安那					
芦田川	1				
三郡					
芦常	2				1
芦辺					
芦加茂					
惠陽					
陽實					
御野					
香地華					
真金					
仲條					
稲倉	3	3			
稲瀬		4			
稲富士					
稲讃					
門司港					
大惠山	2	2			
東水島		1			
高児島	1				
出雲					
瑞雲					
海潮川					
錦洋					
米府	1				
弓ヶ濱					
西伯	1				
米美					
伯仙					
照雲					
松都	1				
樺島					

名称	初	授	修	教人資格講習	会長資格検定
新輝豊			1		
亀田山	1				
出雲川津					
天場山	1				
簸ノ川					
多古浦	2				1
瑞北					
雲東			1		
神村	1				
呉中					
大江橋	1	1			1
品治	1				
久福					
久津					
呉福					
鶴南					
鶴眞	3			1	
川島郷					
鴨方					
作備	1				
輝華	1				
錦ヶ原					
行滕					
眞府					
吉舎					
清嶽					
上小畠					
木津和					
國須					
上吉野	1				
上備	1	1			
河佐	1	1			
上川邊					
甲井					
上父	1				
阿木行					
宇津戸			1		
河面					
府鮮					
府世原					
神驛		1			
神免					
葦沼					
合計	49	31	6	1	3

＜実行委員会＞

○ 別席ひのきしん団参

本誌記事（２～４ページ）参照

○ 毎月の「人づくり成果月別報告書」を提出して下さい。

○ 創立120周年記念祭、アトラクション出演希望者は上原志郎まで。

＜布 教 部＞

○「八つのほこり」･「十全の守護」の冊子、各教会１部配布。

日々拝読し、暗唱させて頂こう。ハンディー版（携帯用）も販売中。

詳細は『天理時報』（７月10日号２ページ）参照

＜海 外 部＞

○ 第69回英語講習会　　８月６日～７日　大教会

詳細は本誌６月号参照

＜詰 所 掛＞

○ 別席･ひのきしん団参、食堂ひのきしんありがとうございました。

○ 全館禁煙です。喫煙は指定場所で!!

＜青 年 会＞

○ 毎月ひのきしん

６月19日実施 34人参加

７月17日実施 25人参加

○ あらきとうりょう入門塾

期　間　　８月15日（月）夕～16日（火）昼まで

下記欄外記事参照

＜少 年 会＞

○ 全隊で教会おとまり会の実施を。

○ 笠岡団夏期錬成会「サマーキャンプ」

期　間　　８月22日（月）～24日（水）

場　所　　せらにし青少年旅行村（広島県世羅郡世羅町黒川）

対　象　　少年会員・学生会員

本誌記事（５ページ）参照

笠岡大教会につながる男子高校生の皆さんこんにちは。
青年会では、このたび若いみなさんを対象にお互いの親睦を
深め青年会活動に触れてもらおうと
「あらきとうりょう入門塾」を開催いたします。
みんなでワイワイ楽しくすごしましょう！
おぢばの学校、地元の学校問わず、気軽に参加して下さい。

要項

日　　時：8月15日（月）～8月16日（火）
　　午後5時集合　正午ごろ解散（昼食後）
場　　所：笠岡大教会
参加対象：男子の高校生層
内　　容：グループタイム・バーベキュー・ボーリング　他
参 加 費：無料
※学生生徒修養会高校の部を受講する方は
　引き続き参加お願い致します。（入門塾のみの参加も可能です）

☆参加申し込みは、
「教会」･「氏名」･「学年」を書いた紙を大教会神事所内回収箱へ
または、青年会上原繁次まで

090-9412-1311　do-my-best.shige@softbank.ne.jp

六月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます
親神様の子供かわいい一条の親心溢れる御守護を頂戴して 今は木々や稲等の作物が育ちやすいようにと潤いとなる梅雨の季節をお与え下されると共に「とのよふな事をするのも月日にわ たすけたいとの一ちよはかりで」と身上や事情を通して積もりがちなる心の埃を掃除して下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます
私共は成って来る理にとまどいを覚えながらも そこに込められた親心を拝し思召に添えるよう心の向きを修整しつつ 日々は朝夕に御礼を申し上げ御恩報じを思い念じてたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております その中にも今日の吉日は此の笠岡にお許し下さいました御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて六月の月次祭を執り行わせて頂きます御前には 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 尚も変わらぬ親心にお縋りする状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さてこの月二十五、二十六日と別席ひのきしん団参をさせて頂きます 帰参人数もさる事ながら 団参に寄せる皆の真実の心をお受け取り下さいまして 喜び感謝の心一杯にお連れ通り下さいますようお願い申し上げます 又来月は恒例の子供おぢばがえりでございます おぢばに帰らせて頂いて親の息をかけて頂くと共に 子供達におぢばがえりの大切さや有難さを伝えたいと存じます 一人でも多くの子供達に帰って貰えるよう募集に余念はありません お力添えの程をお願い申し上げます 更には又東日本大震災を通してよふぼくらしいよふぼくへの変革を促して下さっております よふぼくお互いはその事を重く受け止めよふぼくとしての真実を磨くべく より一層たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂く所存でございます
何卒親神様には 皆の親孝心一条の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に自由の御守護をお現し下さり たすけの理が一人から二人 二人から三人と次々に伸び広がりまして お望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早く立て替わりますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

大教会だより

＝教会指令＝

◎任命願

金浦分教会
＊前任　西江昌直
＊新任　今川昌彦

今川昌彦氏

☆奉告祭　立教174年7月17日
立教174年6月26日承認

◎平成23年上半期　おさづけ拝戴者

1月
笠岡　上原　修
笠岡　田辺　絵理奈
東悠　田林　宏邦
福満　福島　美保
稲倉　北川　真生

2月
無し

3月
芦品　原　心一
稲瀬　前田　稔
稲瀬　前田　浩一
稲瀬　前田　奈緒美
大恵山　瀬藤　博之
東水島　藤本　千穂
大江橋　峠田　宗吾
神驛　井上　幸一
髙屋　谷本　明日香
稲瀬　川上　由紀子
河佐　渡辺　康司
笠岡　松田　祐亮
海松ヶ岡　渡辺　公子
廣町　高橋　伸吉
福山　寺田　光恵
福山　藤井　義仁
陶山　真鍋　珠洲河
陶山　森　静子
海松ヶ岡　森本　雅彦
海松ヶ岡　森本　信彦
海松ヶ岡　森本　美和
吸江　長安　春江
稲倉　藤原　敏之
稲倉　藤原　麻起子
大恵山　山中　美喜
上備　深串　有里

※お詫びと訂正

先月21日発行の『かさおか 第50巻第6号』7ページ掲載の写真（最上段）のネーム中「上原貞雄先生と」は「上原貞雄先生と」の誤りでした。

読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させて頂きます。

見るも世話するも因縁とは

先日、重大な用件でおぢばへ出掛けられる上司のために、高速バスのチケットを買いました。松江から新大阪へ、地下鉄に乗り換えて、なんばから近鉄で天理へ・・・その最初の乗り物に乗り損ねられて、当の本人は、待てども、待てども目当てのバスが来ないのです「2時間経っても来ないぞ！」と、私に電話で怒り心頭。聞いてみると「チケットのバスが一向に来ない？」と云われます。それで漸く分かった、目当てのバスは、チケットに書いて有るバスではなく他社のバスです。それは、阪急・JR・一畑の共同運営路線で、しかも各会社が自前のチケットを流用して経費節減を理由に対応している！とのこと。この上司は快活な八十路の人。

御当人に、前晩に、バス停でも「阪急バス」と云って置いたにも拘らず、チケットのバスを探されたようです。書いた物の確かさ！ それはそうなのです。

後続のバスに乗車を・・・待てよ！ このままだと？ 大阪ででも・・・同じ事が起こるだろうし、安否を気にして居る場合では無いだろう！

結局、車で送る事にして、御当人に平身低頭する。夕刻詰所に送り届けたのです。トンボで帰路に・・・最初からこのようにすれば、気まずい思いや叱られずに済んだものを・・・私は、サービスを売りにするトラベルが、そのチケットに横線を引き「阪急バス」の記入さえしてあれば、こんな事には成らなかったのに！ と思ったが、親神様は事前の松江でお知らせ戴いた事に気が付いたのです、もし、新大阪で、なんばで迷っていたら、大変な事に成ったであろうに・・・その事を本部で幾重にもお礼申し上げたのです。もともと「世話ないかいなぁ、でも、息子がバス停に送って行くし」等と楽観した私の方に因縁があり、トンボ帰りを最初からしておけば、怒鳴られずに済んだし、もっと感謝をして下さったに違いないのです。親神様にもネ・・・。

（に）